令和8年度

森山小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

①聴き合い，伝え合う力を伸ばす授業の充実

②学力向上の基盤となる学習規律・家庭学習習慣の確立

校長	学力向上推進員
久保　尚史	寺澤美智代

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

研究授業の事前研修や研究授業，学力向上研修における教員からの報告等，様々な機会を捉え取り組み状況の把握を行う。

（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○言語や計算等の課題に真面目に取り組み，基礎的，基本的な知識・技能の定着が図られている。 ●基礎的・基本的内容が多くなるにしたがって，学力の二極化傾向が見られる。語彙力にも課題が見られる。自らの学習状況について児童自身が課題意識を持って取り組むことができにくい。	・相手意識,目的意識を持って「話すこと・聞くこと」ができる。 ・基礎学習に集中して取り組み，言語や計算の基礎的，基本的な知識・技能を確実に身につけることができる。 ・日常生活に必要な語彙を習得し，適切に使うことができる。	・「話し方名人・聞き方名人」の取り組みを継続し，全校体制で実践・発表の機会を持ち，学習の土台である「話す聞く」力を培う。 ・スモールステップのぐんぐんテストや前学年の問題を取り入れた小テストを実施するとともに，タブレット端末を活用したドリル学習の頻度を高め，個に応じた基礎学力の向上を図る。 ・詩の暗唱や視写に親しませたり書物や新聞を読んだりすることを通して，語彙力の向上を図る。	・言語指導では，下学年は言葉集めや短文作り，辞書を活用した熟語調べ，上学年では同音異義語，四字熟語，慣用句等に力点を置き，語彙を増やす学びの充実を図る。 ・四則計算では，手順だけの習得にならないように，思考過程を大切にした授業展開に努め，概念理解を深める。 ・ボトムアップを図るために，タブレット端末を活用したドリル学習や個の習熟度に応じたAIドリルの頻度を増やし，基礎学力向上に努める。		

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○スピーチ力が高まり，自分の考えを話そうとする児童や友達の考えにつなげて話そうとする児童が増えてきた。 ●自分の考えを根拠を明らかにしながら筋道を立てて説明したり，他者と自分の考えの相違点に気づき，反論したりできる児童は，少ない。 ●文章の要旨をまとめたり，課題に応じて必要な情報をとり入れて自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・互いに考えを伝え合う活動では，理由や根拠を明らかにしながら自分の考えを伝え、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点を明らかにすることができる。 ・目的や意図に応じて必要な情報を取捨選択し，自分の考えを書いたり伝えたりできる。	・ペアトークやグループ学習等活動形態を工夫したり，意見共有にタブレットの思考ツール等を活用したりし，話し合い活動の充実を図る。 ・「なぜ・どうして」との問い返し学習を進め，学びを深めると共に，対話的な学びのおもしろさを実感させる。 ・ノート指導を充実させ，自分の考えの理由や根拠を書く活動を多く設定する。	・「はなす」活動では，教材を通して学んだモデル学習が，発展学習や総合的な学習における言語活動の中で実践できるよう指導を重ね，学びの習得を図る。また条件づけて自分の考えを書く場面を増やし，目的に応じて書く力を高める。 ・児童が問題を発見し，既習内容を振り替えりながら問題解決を図る学習活動となるよう場の設定や発問を工夫するとともに，見い出したことを表現する伝え合いを大切にした授業展開に努める。		

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○与えられた課題にはまじめに取り組むことができる割合が高い。 ●家庭学習における丁寧さや苦手な課題への取り組み姿勢が低い。 ●自分でめあてを立てて学習に取り組むことや読書の習慣化に課題がある。	・苦手な事や難しい課題に対しても，粘り強く丁寧に取り組むことができる。 ・ 自分でめあてを立て，主体的に学習や読書に取り組むことができる。	・「家庭学習の手引き」や「自主学習の進め方」，また様々なタブレット活用法を紹介し，めあてを持って，自ら意欲的に取り組むことができるようにする。 ・外部図書館との連携や読み聞かせ，週1回の読書時間の確保や週末読書の推奨など読書活動を工夫し，読書環境を整える。 ・ポジティブな行動支援に基づき，児童の頑張ったことやできるようになったことを可視化し，伸ばしていく。	・1分間スピーチに読書紹介を取り入れたり，学年の発達段階に応じて，クラスの人気本調べやお気に入りの本のポップ作りに取り組ませたりし，楽しみながら読書啓発できる機会を設ける。 ・授業の中で，適時タブレットを用いるとともに，家庭での復習や自主学習等にもタブレットを活用させ，個別最適な学びを随時行い，主体的・探求的に学習に取り組む姿勢を培う。		